**事故防止マニュアル（クラブ名）**

**1．種目特性に関わる事故**

　種目特性に関わる内容を記載してください。

（記載例）

バドミントンは、シャトルをラケットで打つ、シャトルの落下地点へ移動する、ダブルスの場合2人が同じコート内に入ることから、ラケットがからだに当たる、シャトルが顔面に当たる、捻挫やアキレス腱断裂、肩・肘の傷害の危険性がある。

**2．活動開始前の事故防止対策**

**2.1　施設・用具の点検***（種目特性に応じて必要があれば加筆・修正等してください）*

　施設・用具の安全点検として、初期点検・定期点検・日常点検の三つを行う。初期点検は、新たに用具等の購入時、定期点検は四半期や半期など定期的に、日常点検は毎回の活動開始前に実施する。

　　2.1.1　施設

　　使用する施設に応じて必要な点検項目を記載してください。

（記載例）

　　・体育館フロアに異物やゴミが落ちていないか，凹みやささくれがないかを点検して整備する（日常点検）

　　・雨天後や湿度が高い場合は，体育館フロアに滑りやすい箇所がないかを点検して整備する（日常点検）

　　・換気に使う非常扉や窓の開閉、カーテンなどに破損がないかを点検する（定期点検）

　　2.1.2　用具

　　使用する用具等に応じて必要な点検項目を記載してください。

　　（記載例）

　　・ラケットのフレームやガット、シャフト、グリップに摩耗や破損がないかを点検する（定期点検）

　　・シャトルの摩耗について点検する（定期点検）

　　・支柱およびスライドフックについて点検する（定期点検）

　　・ネットの摩耗について点検する（定期点検・日常点検）

**3．活動開始時の事故防止対策**

**3.1　施設・用具の設置***（種目特性に応じて必要があれば加筆・修正等してください）*

　・使用する用具等を設置する際には、用具に破損等がないか、またセッティングに不備がないかを入念に確認しながら行う。

**3.2　会員（部員）の健康状態の把握***（種目特性に応じて必要があれば加筆・修正等してください）*

・活動開始時に健康（体温や風邪等の症状）や傷害の状態を確認する。健康については、特に気温が高い日や低い日に注意し、状態に応じて見学や帰宅を指示する。傷害については、状態に応じて参加が可能な範囲で活動する。なお、事故防止のためには健康や傷害の状態を会員（部員）相互で理解することも重要であるため、可能な範囲で情報を共有する。

**3.3　種目特性に応じた準備運動とウォーミングアップ**

・種目特性に応じて必要な準備運動の方法等を記載してください。

（記載例）

バドミントンでは、足首、アキレス腱、肩、肘の傷害が大きなものであるため、周辺部位のストレッチを重点的に行う。

**4．活動中の事故防止対策**

**4.1　事故防止に向けた注意点**

・種目特性に応じて必要な注意点等を記載してください。

（記載例）

　　・腕時計や指輪その他装着品は活動前にはずしておく。

　　・使用するウェア、シューズ等は適切なものを着用する。

　　・活動で行う動作についての安全な実施方法や禁止事項について確認する。

　　・事故につながる危険性のある動作や発生し得る可能性のある傷害について確認する。

　　・ヒヤリハット・事故事例とその防止策について確認する。

**4.2　新入生への安全な指導**

4.2.1　会員（部員）の技能レベルの確認*（種目特性に応じて必要があれば加筆・修正等してください）*

　・主将等の代表者や役員が新入生の技能レベルを確認した上で、適切な運動課題に取り組ませるよう指導を行う。

　・正しい技術習得状況の観察観点について、会員（部員）間でも共有し、的確な技術習得ができるようにする。

4.2.2　段階的な指導の実施

　　指導方法等を具体的に記載してください。

　（記載例）

　　・種目特性に応じた適切なウォーミングアップを行うよう指導する。

　　・シャトルが顔面（眼球）に当たることもあるため、危険な場合には下を向くことやラケットでカバーすることを指導する。

　　・素振りでフォームを身につけることを優先する。実施する際には，周りに他の人がいないかを確認してから行うように指導する。

　　・フットワーク練習を先行させ、実施の際には捻挫に注意するよう指導する。

　　・2人組で行うラリー練習では，ペア間の距離を確保する。また、自分の練習エリア以外へシャトルが飛んでしまった場合には無理に追わないことを指導する。

**4.3　見学者や非運動者**

・種目特性に応じて見学者等が注意しなければいけない点等を記載してください。

（記載例）

・練習や試合をコート内で行わない時にもシャトルやラケット、運動者から目を離さないように，注意深く観察するようにする。

・練習や試合時のシャトルが飛んでくる位置にいないよう、また、スイングの軌道上にいないよう指導する。

・周りにラケットを振る人がいないか注意するように指導する。

**5.　環境条件等が要因となって起こる熱中症事故防止について**

**5.1　熱中症予防・対策***（種目特性に応じて必要があれば加筆・修正等してください）*

　　・こまめな水分補給できるよう、飲み物などを持参する。

　　・温湿度計をもとに熱中症予防における注意喚起するとともに、活動の実施内容ついて検討する。

**5.2　 Jアラート発令時の対応**

・発令時の対応や様々な場面での避難方法について確認し、事前に会員（部員）へ周知しておく。

　（内閣官房　国民保護ポータルサイト：https://www.kokuminhogo.go.jp/kokuminaction/index.html）

**6.　急病者・負傷者発生時の対応について**

・緊急時フローチャートに従って迅速かつ適切に対応する（別紙参照）。

【参考資料・ホームページ】

参考になる資料やホームページ等があれば記載してください。